

科目名	児童文化						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	岩田 佐知子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務		
対象学科・学年	こども保育科3年						
授業概要	児童文化は、大人が子どものために作ったり、子ども自身が作り、伝承する文化全般の中で子ども達に関わる領域の文化であり、生活そのものである。 この児童文化の重要性を十分に認識し、内容を把握し、子どもの遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					児童文化に関する重要性を認識し、内容を把握できる。	
		○				こども遊びを指導者として実践できる。	
		○				こどもの表現活動を指導できる。	
	○					児童文化財などに関する知識を理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	絵本は友達 教師作成プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目のオリエンテーション 児童文化とはなにか 児童文化における遊びの位置づけ			絵本を選んで持ってくること(0.5時間)		
	2	遊びについて 伝承遊びについて			伝承遊びについて調べておくこと(1時間)		
	3	児童文化財ー玩具・遊具について			玩具・遊具について調べておくこと(1時間)		
	4	児童文化財ー折り紙			折り紙について調べておくこと(1時間)		
	5	児童文化財ー紙芝居 絵本・読み聞かせ			絵本について調べておくこと(1時間)		
	6	児童文化財ーぬりえ			色鉛筆を準備し、塗り絵を準備すること(1時間)		
	7	季節の遊びについて			季節の遊びを調べておくこと(1時間)		
	8	おもちゃのワークショップ			ゲーム性のあるおもちゃについて調べておくこと(1時間)		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)製作物、(2)授業態度(出席率、私語・居眠りの有無)を下記の割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	製作物		◎		○		50%
	授業態度				○		50%
履修上の注意	授業態度が著しく悪い場合、出席が6回に満たない場合は、単位の取得を認めない。						

科目名	保育・教育実践演習						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	増田 吹子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	短期大学・専門学校で教務経験有		
対象学科・学年	こども保育科3年生						
授業概要	実習経験の振り返りや文献講読等を通して、子ども・保育についての考え方を深める。特に、「遊びを通して行う」「環境を通して行う」といった保育の基本や自発性・主体性を重視した指導について確認し、指導計画・カリキュラムを考え、要領や指針のポイントを理解する。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					エピソード記録を書くことができる。	
	○					エピソードを分析して、10の姿・3つの柱について考えることができる。	
	○					主体性を重視した行事指導の計画を考えることができる。	
	○					自分なりの保育観をもち、人にわかるように説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	・倉橋惣三『育ての心(上)』フレーベル館、2008年 ・幼稚園教育要領解説						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	エピソードから捉える10の姿と3つの柱				授業内に指示するレポートを作成する。(0.5時間)	
	2	実習経験についてのまとめと発表				授業内に指示するレポートを作成する。(0.5時間)	
	3	行事指導の考え方① 主体性を重視した行事指導の計画				指導計画を完成させる(2時間)	
	4	行事指導の考え方② 発表				授業内に指示するレポートを作成する。(0.5時間)	
	5	保育観を深める① 子どもの姿から考える				授業内に指示するレポートを作成する。(0.5時間)	
	6	保育観を深める② 倉橋惣三「育ての心」を読む				授業内に指示するレポートを作成する。(0.5時間)	
	7	理想の保育を考える① パンフレットの作成				授業内に指示するレポートを作成する。(0.5時間)	
	8	理想の保育を考える② 発表・まとめ				授業内に指示するレポートを作成する。(2時間)	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)宿題・レポートを複数回実施する (2)発表する (3)授業への参加状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート		◎		○		70%
	発表・作品			◎	○		30%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位の取得を認めない。						

科目名	乳児保育						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	権藤直美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育園にて保育士として勤務		
対象学科・学年	こども保育科3年						
授業概要	乳児保育の必要性と役割について学ぶ。 3歳未満児の発育・発達について学び健やかな成長を支える。さらに3歳未満児の生活と遊びについて理解する 子育てを担う保護者を支援するものとしての保育の役割を考える。保護者の良き理解者、指導者としての、知識や技能を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					現代の社会的意義から乳児保育の必要性を説明できる。	
	○					乳児保育の役割について説明できる。	
		○				3歳未満児の発育・発達・危険(安全管理)について学び、健やかな成長に必要な知識について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	「はじめて学ぶ 乳児保育」 志村聡子/編著 同文書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	乳児保育の社会的意義				テキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	2	離乳をすすめるにあたってのポイント 基本的な生活習慣の自立に向けての保育者の対応				テキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	3	乳児保育における安全管理について				テキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	4	言葉の発達について ことばをはぐくむ関わりについて				テキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	5	連絡帳を書くうえで大切にしたいこと 「虐待」とはどのような行為か、また虐待が疑われる場合の保育者の対応				テキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	6	発達が気になる子どもの保護者との連携について				テキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	7	実践(抱っこ・おんぶ・おむつ交換・沐浴など)				テキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	8	園だより作成				実習で見てきた子供たちの様子や行事前の取り組み 子どもの姿など思い出しておくこと。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業態度(出席率、居眠り・私語等)、(2)定期試験の点数により評価をする。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度				○		50%
	定期試験	○	◎				50%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位の取得を認めない。						

科目名	保育現場実践B (必須選択A)						
科目名(英)	art&craft for children						
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	屏賀 一男		
実施年度	2020年度	実施時期	後期(通年)	担当者実務経験	短大・専門学校に於いて図画工作を指導		
対象学科・学年	こども保育科3年						
授業概要	幼稚園教諭や保育士として、必要な感性や表現力を伸ばすために実技基礎演習を行う。幼児教育に於ける平面表現や立体表現の専門的知識や色彩・構図あるいは教材の特性を知ることが必要である。また、現代の時流に沿った教材を、用いた具体的な実践演習、造形表現教育法について理解する。教材・用具の使い方と安全確保・後片づけについて学ぶことは、重要である。						
授業形式	講義:	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					制作した自分の作品について、テーマや表現方法、構図・色彩・教材など、文章で説明することができる。	
		○				制作を体験することで、保育現場での自分の役割を理解できるようになる。	
		○				自己の感受性・創造力・集中力を養い、保育の現場で力を発揮することができる。	
				○		園児と触れあう体験から、心や身体の変化に気づき、とっさの時の状況判断を学ぶことができる。	
テキスト・教材 参考図書	講師作成資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	美術協会展出品のための制作準備～作品制作				完成にむかっの準備を、もう一度確認する(30分)	
	17	美術協会展出品のための制作準備～作品完成までの手順について				完成、出品にむかっの準備(30分)	
	18	美術協会展出品のための制作準備～作品完成までの再確認				授業終了時に、課題についてレポートを作成すること(20分)	
	19	平面表現～色鉛筆を使った表現～いわき福祉会				次回の授業のための教材を、自分で用意する(20分)	
	20	平面表現～色鉛筆を使った表現(大人の塗り絵)～いわき福祉会				授業終了時に、課題についてレポートを作成すること(20分)	
	21	造形表現～あい染め制作				次回の制作のための準備を、自分で検討する(30分)	
	22	造形表現～あい染め制作				授業終了時に、課題についてレポートを作成すること(20分)	
	23	平面表現～墨彩画の制作				授業終了時に、課題についてレポートを作成すること(20分)	
	24	造形表現～オープン粘土の制作				次回の制作のための準備を、自分で検討する(30分)	
	25	造形表現～オープン粘土の制作、焼成				授業終了時に、課題についてレポートを作成すること(20分)	
	26	漫画ミュージアム出展のための制作準備～作品制作のための構想				次回の授業のための構想を考える(30分)	
	27	漫画ミュージアム出展のための制作準備～作品制作				完成にむかっの制作と修正確認(30分)	
	28	漫画ミュージアム出展のための制作準備～作品制作				完成にむかっの準備を、もう一度確認する(30分)	
	29	漫画ミュージアム出展のための制作～作品完成に向けて				完成、出品にむかっの準備(30分)	
30	定期試験						
評価方法	(1)美術館での展示を見据えた授業を5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記と実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	(1)発表・作品		◎		○		80%
	(2)宿題・レポート		◎		○		10%
	(3)定期試験		◎		○		10%
履修上の注意							

科目名	保育実習応用A (必須選択A)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	小川 洋子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	市町村・病院・短期大学において管理栄養士として勤務		
対象学科・学年	こども保育科 3年						
授業概要	人が長い一生を健康に過ごすためには、子どもの時からの食生活が重要であり、特に乳児期と幼児期の食事内容はその後の発育や健康に影響を及ぼす。この授業では、「食」や栄養に関する基礎知識を再確認し、さらに乳児期や幼児期に必要な栄養の摂り方を講義や実習を通して学び、保育士として子供たちに食育が出来るようになることを目指す。また、地域とのつながりを深めるための園だよりの作成なども学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習: △	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					子どもたちに食べ物の大切さや、必要性をわかりやすく説明することができる。	
		○				食品にはどのような栄養素が含まれ、人はその栄養素をどのように利用して生きていくのかを説明できる。	
		○				乳児期、幼児期の食について考え、健康な発育のための栄養量や食事量を説明できる。	
		○				学んだ知識をもとに食育のための媒体作りや園だよりを作成することができる。	
			○			実習や演習などのグループワークに協力して参加できる。	
テキスト・教材 参考図書	テキストは使用せず、プリントを配布する。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「食」と栄養に関する基礎知識の理解			自分の食生活についてレポート(1枚)を書いておくこと(1時間)		
	2	乳児期の栄養についてー調乳、離乳食など			2年次に学んだ「子どもの食と栄養」を読み、再確認しておくこと(2時間)		
	3	幼児期の栄養についてー幼児食、食物アレルギーなど			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)		
	4	幼児期の「食」に関する様々な問題についてー虫歯、偏食、食欲不振など			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)		
	5	保育所給食の役割と必要な食育について			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)		
	6	グループワーク(家庭や地域における食育の実践について考える)			家庭や地域での食育の必要性を考え、レポートにまとめておくこと(1時間)		
	7	グループワーク(園だより作成)			園だより作成のために必要な資料を準備しておくこと(1時間)		
	8	調理実習(調乳と離乳食作り)			実習のためのレシピを事前に読み、内容を理解しておくこと(0.5時間)		
	9	調理実習(調乳と離乳食作り)					
	10	調理実習(幼児食作り)			実習のためのレシピを事前に読み、内容を理解しておくこと(0.5時間)		
	11	調理実習(幼児食作り)					
	12	調理実習(おやつ作り)			実習のためのレシピを事前に読み、内容を理解しておくこと(0.5時間)		
	13	調理実習(おやつ作り)					
	14	食育のための指導案と媒体作り			食育のための指導案作成と媒体作りのための資料準備をし、調べておくこと(2時間)		
15	食育の実践			食育実践のための練習をしておくこと(1時間)			
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)園だよりや食育指導案、媒体を作成する。(3)授業への参加状況(グループワーク時の発言、調理実習)。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト		◎				10%
	園だより作成		◎		○		10%
	食育指導案・媒体作成		◎		○		20%
	食育実践	◎	○		○		50%
調理実習		○		◎		10%	
履修上の注意	定期試験は実施せず、小テスト・園だより作成・食育指導案作成、食育媒体づくり・食育実践などで総合評価を行い成績とする。						

科目名	保育実習応用B (必須選択A)						
科目名(英)							
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	増田 吹子		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(後期)	担当者実務経験	短期大学・専門学校で教務経験有		
対象学科・学年	こども保育科3年生						
授業概要	保育の中心となる「遊び」について学ぶ。「保育」「遊び」に関する基礎的な理論を基に、実際の遊びの展開を通して、遊びの中で子どもが何を体験し何を学んでいるかについて考えるとともに、保育現場で実際に子どもたちが体験するのに適した遊びを多く経験し、保育現場で即戦力となる知識・技術を身に付ける。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					保育における遊びの意義について説明できる。	
	○					遊びの中で子どもが経験することや学ぶことを考えることができる。	
			○			子どもの姿からねらい・内容を構成し、子どもの前で遊びの指導ができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・幼少年教育研究所編著『遊びの指導 乳・幼児編』同文書院, 2009年 ・幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	保育における遊びの意義				遊びの指導p.15～p.20を読んでおく。	
	2	折り紙遊び				授業内に指示する課題について、レポートを作成すること(0.5時間)	
	3	感触遊び① 小麦粉粘土				授業内に指示する課題について、レポートを作成すること(0.5時間)	
	4	感触遊び② スライム遊び				授業内に指示する課題について、レポートを作成すること(0.5時間)	
	5	指導計画の作成・模擬保育準備① 室内遊び				模擬保育に向けての準備を各自で進める。(2時間)	
	6	模擬保育② 学生を子どもに見立てた模擬保育				授業内に指示する課題について、レポートを作成すること(0.5時間)	
	7	模擬保育③ 模擬保育とその振り返り				授業内に指示する課題について、レポートを作成すること(0.5時間)	
	8	新聞遊び				授業内に指示する課題について、レポートを作成すること(0.5時間)	
	9	自然遊び① 秋の自然を見つけよう				授業内に指示する課題について、レポートを作成すること(0.5時間)	
	10	自然遊び② 秋の自然で遊ぼう				授業内に指示する課題について、レポートを作成すること(0.5時間)	
	11	伝承遊び あぶり出し				授業内に指示する課題について、レポートを作成すること(0.5時間)	
	12	指導計画の作成・模擬保育準備② 伝承遊び				模擬保育に向けての準備を各自で進める。(2時間)	
	13	模擬保育③ 学生を子どもに見立てた模擬保育				授業内に指示する課題について、レポートを作成すること(0.5時間)	
	14	模擬保育④ 模擬保育とその振り返り				授業内に指示する課題について、レポートを作成すること(0.5時間)	
	15	まとめ 保育における遊びの意義について再考する				授業内に指示する課題について、レポートを作成すること(2時間)	
評価方法	(1)宿題・レポートを複数回実施する (2)模擬保育を実施する (3)授業への参加状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 ※前期・後期で担当者が異なるため、通年評価は、前期50%・後期50%で、後期終了時に増田が行う。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート		◎		○		80%
	発表・作品			◎	○		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位の取得を認めない。						

科目名	相談援助演習(3年次分) (必須選択B)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	藤井成樹		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	高齢者施設に生活相談員として勤務		
対象学科・学年	こども保育科3年						
授業概要	社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。 ①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げること。 ②個別指導並びに集団指導を通して具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング)、グループワークを中心とする演習形態により行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		社会福祉士としての倫理観、利用者中心の支援について説明できる。	
		○		○		社会福祉施設職員として必要な地域資源について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教師作成プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	課題検討① (導入・自己覚知・アセスメント)			実習日誌の振り返りしておくこと		
	2	課題検討② (ソーシャルワークの視点)			実習日誌の振り返りしておくこと		
	3	課題検討③ (ICFの視点、ストレングス視点、エンパワメント・アプローチ、クライエントの立場)			実習日誌の振り返りしておくこと		
	4	課題検討④ (プランニング)			実習日誌の振り返りしておくこと		
	5	課題検討⑤ (感情移入)			実習日誌の振り返りしておくこと		
	6	課題検討⑥ (アセスメントを通しての情報収集)			実習日誌の振り返りしておくこと		
	7	課題検討⑦ (アセスメントを通しての情報収集)			実習日誌の振り返りしておくこと		
	8	課題検討⑧ (エコシステムの視点からの情報収集 I)			実習日誌の振り返りしておくこと		
	9	課題検討⑨ (エコシステムの視点からの情報収集 II)			実習日誌の振り返りしておくこと		
	10	課題検討⑩ (地域福祉の計画、アウトリーチ、社会資源の活用・調整・開発)			実習日誌の振り返りしておくこと		
	11	課題検討⑪ (ニーズの多様性の理解 I)			実習日誌の振り返りしておくこと		
	12	課題検討⑫ (ニーズの多様性の理解 II)			実習日誌の振り返りしておくこと		
	13	ビネット作り			実習日誌の振り返りしておくこと		
	14	ビネットアセスメント～プランニング			実習日誌の振り返りしておくこと		
15	まとめと確認テスト						
評価方法	(1)グループワークへの参画度、(2)15回目実施の確認テストの点数により評価をする。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループワークへの参画				○		50%
	確認テスト		○				50%
履修上の注意							

科目名	社会保障 (必須選択B)						
科目名(英)	social security						
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	安川 渉寛		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(後期)	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども保育科3年						
授業概要	国家資格である社会福祉士並びに精神保健福祉士の取得に際し、必須科目であると同時に、社会福祉構造全般を学ぶことができ、福祉系の就職及び業務遂行にあたっては、基底となる科目である。 本授業では、形式的知識の習得から、業務に際しては説明できる能力が必須である為、それらの習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		自身の生活と社会保障の関わりについて認識をもつことができる。	
	○					形式的知識を身につけ、1つ以上の福祉制度を簡略化して説明できる。	
				○		テキストの文章表現よりも分かりやすく、ビジュアルアウトプットができる。	
テキスト・教材 参考図書	社会福祉士要請講座編集委員会編『新・社会福祉士要請講座12 社会保障 第6版』(中央法規)2019年出版 ※この他にも、厚生労働省作成資料等を配布することがある						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・社会保障論の定義付け			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	社会保障論の基礎的考え方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	社会保障の歴史(社会保障の誕生～発展及び歴史的展開等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	社会保障の歴史(日本における社会保障の歴史的展開と発展過程等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	社会保障の構造			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	社会保障の財源と費用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	前期前半のレビュー(小テストの実施予定)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	年金保険制度(沿革と概要、公的年金制度の全般等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	年金保険制度(国民年金制度全般等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	年金保険制度(厚生年金保険制度全般等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	年金保険制度(他制度とのリンク及びレビュー等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	医療保険制度(沿革と概要、ステークホルダーの概念等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	医療保険制度(国民健康保険制度全般等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	医療保険制度(後期高齢者医療制度、混合診療、レビュー等)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	前期後半のレビュー(小テストの実施予定)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	授業における提出物、発言、発表、小テスト等(30%)、定期試験(70%)の割合を基準に、個別で総合的に勘案して、評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				70%
	授業における提出物、発言、発表、小テスト等				○		30%
履修上の注意	2/3以上の欠席がある場合は、定期試験を受験することができない。						

科目名	保健医療サービス (必須選択B)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	島 京子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	総合病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	こども保育科 3年						
授業概要	相談援助活動において必要となる医療保険制度・診療報酬制度・医療法や保健医療サービスについて学ぶ。保健医療サービスにおける専門職の役割と実際及び多職種協働について学ぶ。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	目標		
	○	○		○	保健医療サービス(医療保険・診療報酬・医療法など)の概要を説明することができる。		
	○	○		○	保健医療関連専門職の役割について、多職種協働について理解し、説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉養成講座「保健医療サービス」中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	保健医療サービスの利用者の理解①			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語などは調べておくこと(1時間)		
	2	保健医療サービスの利用者の理解②			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語などは調べておくこと(1時間)		
	3	保健医療サービスの变化と社会福祉専門職の役割①			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語などは調べておくこと(1時間)		
	4	保健医療サービスの变化と社会福祉専門職の役割②			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語などは調べておくこと(1時間)		
	5	保健医療サービスを提供する施設とシステム①			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語などは調べておくこと(1時間)		
	6	保健医療サービスを提供する施設とシステム②			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語などは調べておくこと(1時間)		
	7	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語などは調べておくこと(1時間)		
	8	保健医療専門職の役割①			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語などは調べておくこと(1時間)		
	9	保健医療専門職の役割②			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語などは調べておくこと(1時間)		
	10	保健医療サービスの提供と経済的保障			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語などは調べておくこと(1時間)		
	11	保健医療サービスにおける専門職の連携と実際①			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語などは調べておくこと(1時間)		
	12	保健医療サービスにおける専門職の連携と実際②			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語などは調べておくこと(1時間)		
	13	保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実際			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語などは調べておくこと(1時間)		
	14	保健医療サービスにおける今後の課題と展望			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語などは調べておくこと(1時間)		
15	まとめ・振り返り			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語などは調べておくこと(1時間)			
評価方法	(①)宿題・レポートを実施する。(②)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	小テスト						
	宿題・レポート	◎	◎		◎		50%
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	卒業研究						
科目名(英)							
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	岩田 佐知子		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(後期)	担当者実務経験	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務		
対象学科・学年	こども保育科3年						
授業概要	3年間の子ども保育科での学内学習、実習経験の中で、自らの研究課題を設定し、検証をしていく。その研究過程を通して主体的に取り組む姿勢を身につけ、研究の展開方法を理解し結論を導き出すことができる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		自らの研究目標を明確にし、卒業研究完成まで計画的に取り組むことができる。	
	○	○		○		自ら設定したテーマの現状を捉え、課題を明確にし、今後の方向性を導き出すことができる。	
	○	○				卒業研究執筆のルールを守り完成させることができる。	
テキスト・教材 参考図書	レポート&卒論の書き方 教師作成プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	課題研究			課題研究について考える(0.5時間)		
	2	課題研究			課題研究について考える(0.5時間)		
	3	課題研究			課題研究について考える(0.5時間)		
	4	課題研究			課題研究について考える(0.5時間)		
	5	課題研究			課題研究について考える(0.5時間)		
	6	課題研究			課題研究について考える(0.5時間)		
	7	課題研究			課題研究について考える(0.5時間)		
	8	課題研究			課題研究について考える(0.5時間)		
	9	課題研究			課題研究について考える(0.5時間)		
	10	課題研究			課題研究について考える(0.5時間)		
	11	課題研究			課題研究について考える(0.5時間)		
	12	課題研究			課題研究について考える(0.5時間)		
	13	卒業研究発表			課題研究について考える(0.5時間)		
	14	卒業研究発表			課題研究について考える(0.5時間)		
15	保育者としての今後の自己の課題			自己の課題について考える(0.5時間)			
評価方法	(1)レジュメの提出、本文中間提出(2)卒業研究の完成(3)態度・意欲をもって評価とする。 成績評価機軸は、、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト						
	レジュメ	○	○		○		25%
	中間発表	○	○		○		25%
履修上の注意	卒業研究作成にあたり、外部に出る場合は事前に担当教員の許可を得ること。提出状況が著しく悪い場合は単位を出さない。						

科目名	施設実習指導						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	岩田 佐知子		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(後期)	担当者実務経験	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務		
対象学科・学年	こども保育科3年						
授業概要	施設実習は保育現場において子どもや利用者と直接接することにより、理論の実践化・実践の理論化の両方を試みる体験学習の機会である。施設実習をより効果的に行うために、実習の意義やねらい・実習対象者施設・実習の心構え等について事前指導を行う。 自ら調べることで、より施設についての理解を深める機会とする。						
授業形式	講義: Δ	演習: ○	実習: Δ	実技: Δ	※ 主たる方法:○ その他:Δ		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		児童福祉施設の概要を説明できる。	
	○	○		○		施設の生活について説明できる。	
	○	○		○		歴史・近郊の傾向について説明できる。	
	○	○		○		援助内容と方法の理解をして実習で実践できる。	
	○	○		○		施設実習の概要と学びのポイントを理解して実習で実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿大学九州短期大学 保育実習指導 ・ミネルヴァ書房 幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	実習の振り返り、保育実習Ⅱ・Ⅲ書類準備			実習施設希望調査及び実習施設を確認しておくこと(0.5時間)		
	2	実習報告会準備			実習施設関連のことを調べておくこと(0.5時間)		
	3	実習報告会準備			実習施設関連のことを調べておくこと(0.5時間)		
	4	実習報告会			実習施設関連のことを調べておくこと(0.5時間)		
	5	保育実習Ⅱ・Ⅲ準備オリエンテーションについて			実習施設関連のことを調べておくこと(0.5時間)		
	6	保育実習Ⅱ・Ⅲ準備、ファイル作成、提出方法及び実習中の諸注意			実習施設関連のことを調べておくこと(0.5時間)		
	7	パネルシアター作成			題材を調べてくること、材料を準備すること(0.5時間)		
	8	パネルシアター作成			材料を準備すること(0.5時間)		
	9	パネルシアター作成			材料を準備すること(0.5時間)		
	10	パネルシアター発表			材料を準備すること レポート下書き(0.5時間)		
	11	エプロンシアター作成			題材を調べてくること、材料を準備すること(0.5時間)		
	12	エプロンシアター作成			材料を準備すること(0.5時間)		
	13	エプロンシアター作成			材料を準備すること(0.5時間)		
	14	エプロンシアター発表			材料を準備すること レポート下書き(0.5時間)		
15	3年間実習振り返り評価替えし			実習ファイルを準備しておく 教科書の該当範囲プリントを事前に読んでおく(0.5時			
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施なし。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)実技試験を実施する。 (4)実習評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習評価	○	○				50%
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○				20%
	実技試験	○	○				30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、実技試験の受験資格を与えない。						